

## 「歯科衛生士から歯科技工士と共有したい歯周基本情報」

吉田 俊香

(一社)和歌山県歯科衛生士会 監事

生活習慣予防指導(特定保健指導・食生活改善指導担当者)認定歯科衛生士

歯科医療安全管理認定歯科衛生士

この度、合同研修会を開催されることになり、たいへんうれしく思っております。

国家資格を持ち歯科において患者に関わる職種は、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士であり、本来のチーム医療という視点でみると、この3者がタッグを組むことが望ましいと考えています。

私自身は、歯科技工士と歯科衛生士の連携が少ないのではと感じており、それは院内技工士が少ないことも一つの要因であることでしょう。

しかし、大きな要因は、我々歯科衛生士が、歯科技工士の業務内容をしっかりと把握出来ていないために、本来必要な事項を伝えきれていないことが大きいのではないのでしょうか。

そこで、この研修会で、歯科衛生士が 歯科技工士に伝えたいこととして、

- ① 歯周病とは
  - ② 歯周基本治療とは
  - ③ 実際の歯周基本治療と望ましい補綴形態の考察
- を中心としてお話いたします。

## 「実際に行っている連携したい作業内容」

岡本 貴富

(一社)和歌山県歯科技工士会 学術理事

(公社)日本補綴歯科学会 登録歯科技工士

歯科衛生士会との合同研修ということで歯科技工士と共有したいこと、お願いしたいこと、との題目でアンケートをとってもらった。集計結果、印象、模型の変形、補綴装置の精度に関することが多かった。

近年 IOS(口腔内スキャナー)等のデジタル化が普及していく中、今一度基本に帰り従来からの印象採得と咬合採得について考察し口腔内＝模型、調整の少ない補綴装置の作業内容を歯科衛生士のみな様と共に考えていきたい。

「 歯科衛生士と共有 連携したい事項 」

近年の歯科医療は大きく変遷し、患者からの要望は高度化を呈するとともに多様化の一途をたどる中、私達歯科技工士に求められることはただ単に歯を作るのではなく、患者の要望に対し歯科医師の指示のもと歯科衛生士とともに情報を共有、連携しその目的成就に邁進することである。

日常の歯科技工業務において最善のゴールを目指すためには、診療室からもたらされる正確な情報と、患者の口腔内を正確に再現した模型を入手し、作業時には診療室とラボサイドが共通のマニュアルのもと作業を進めることが最も大切な事です。

今回は 前歯部補綴治療を通じて診療室サイドと連携しながら共有したい事柄を述べさせていただきたいと思います。

(公社) 日本歯科技工士会 認定講師

橘 勝一